

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

<10>

自らの意識改革を！

【自らの身は自ら守る】

大地震などのとき、壊れた家やブロック塀の下敷きになったり、家具やガラスで大けがをするなど自分の身が危険になるケースがいろいろありますが、こんなとき自分の身の安全を、誰か人に任せておいてよいものでしょうか。

行政や地域は、被害を小さくするための準備や災害発生後の救助などは実施できても、今まさに自分が身に危険が迫っているときに、直接個人を助けることはほとんど不可能でしょう。特に地震の場合はそうです。

そこで、とっさのときに「自分が死なない、怪我をしない」ために、

自分でできること(備え)をしつかり行うことが最も大切です。これが「自助」で、防災の原点です。もちろんここでいう自分とは、家族を含んでいいます。

また、情報は、与えられるだけではなく、自分の安全のために自らも入手することが必要です。

【地域の安全は地域で守る】

阪神・淡路大震災での救助の状況が示すように、防災における地域の役割は極めて重要

です。地域がその重要な役割を十分に果たすためには、地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守ろう」という連帯意識を持つことが必要です。

また、住民一人ひとりが、災害のときに協力して助け合えるよう、地域の様々の活動に進んで参加し、日ごろから良い人間関係を作っておくことが重要です。

【まさか】から「もしかしたら」へ意識改革を！

香川県は地形的に恵まれ、ここ数十年、大きな自然災害を受けた



県総合防災訓練で消火活動をする丸亀市の川西地区自主防災会。今年9月1日

経験が少なかったため、県民のほとんどが「まさか香川県には、大きな台風災害や大地震は無いだろう」と思い込んでいたのではないのでしょうか。この「まさか」が、防災意識を低くし、香川県を災害に弱い体質にしているのではないのでしょうか。

最近では地球規模で大洪水や大干ばつが起きております。香川県においても、一昨年(04年)相次ぐ台風等の大災害にみまわれました。また、南海地震の発生が間近に迫っています。どうか、この「まさか」

を「もしかしたら(私たちの身近でも...)」に意識改革していただきたいと思えます。

【次号のテーマ】

次回からいよいよ「実行する備えの実行」に入りますが、県や市町及び地域で行う防災対策よりも、読者の皆様の興味深い「自分でできる防災対策」に焦点を絞ってお話を進めてまいります。次号は、「防災に関する個人の役割と備え」についてお話しします。

エピソード

⑥

阪神・淡路大震災

【刺身が食べた】

自衛隊は、場所さえあれば寝ることも食事の準備も自分でできます。

派遣現場に着いて3日目くらいから温かい食事ができるようになりました。しかし、周囲は被災地、普段のようにいきません。昨日もカレー、今日もカレー、明

日も……。レトルト食品の連続でした。

2週間以上たつて、初めて着替えを取りに京都の家に帰ることになりました。連絡の電話を切った後、「しまった!」と思いましたが、私がカレー好きなことを家族の皆がよく知っていたからです。「まさか今夜も...」

しかし、うれしいことにその夜は刺身とソバでした。

(おわり)